

氏名	大中 一彌 (教授)
こんな研究をしています	<p>【学問分野】政治学、政治思想 【地域】フランス語圏</p> <p>【キーワード】ヨーロッパ、文化史、社会科学、認識論</p> <p>【関心】言語や文化のはざまにいる人たちが、そこから生み出されるものに関心があります。</p>
こんな成果を挙げています	<ul style="list-style-type: none"> ・「マルクス主義と国民のナラティブ」『マルクス主義キーパーソン』大月書店、2026年刊行予定。 ・「マージナル・マン論再考」『異文化』23号、2022年。 ・「黄色いベスト運動 — あるいは21世紀における多数派の民衆と政治」『対抗言論』法政大学出版局、2019年、254-289頁。 ・杉田孝夫・中村孝文編『市民社会』第八章 現代フランスの「スカーフ問題」における市民社会と国家 199-222頁 おうふう 2016年。 ・「移民社会の論じ方 — ジェラルド・ノワリエルにおける記憶と歴史 —」『思想』岩波書店 1096, 171-187頁 2015年。
ほかに、こんなジャンルに関心をもっています	<ul style="list-style-type: none"> ・フランスにおける社会統合（人びとをどうまとめあげていくか） 例1：ヴェルサイユ宮殿に代表される古典主義文化がもつ政治とのかかわり 例2：20世紀以降におけるイスラームと非宗教性（ライシテ）の紛争 例3：現代フランスにおけるさまざまな社会運動（Ch. ギリュイのいう「周縁部のフランス」のそれを含めた）とポピュリズムの関連 ・特定の人や作品、運動やコミュニティに対象を絞った研究を歓迎します。
こんな授業を行なっています	<p>国際文化研究科「多言語社会論A」と「多言語社会論B」を担当しています</p> <p>授業のテーマを紹介する動画</p> <p>多言語社会論A https://x.gd/nsS4Y</p> <p>多言語社会論B https://x.gd/ZTqye</p> <p>問い合わせや各種相談は、次の Microsoft フォームからお願いします</p> <p>https://forms.office.com/r/dnXXNFXw6x</p>
学会や社会でこんな活動をしています	<ul style="list-style-type: none"> ・法政大学出版局の理事長を現在つとめ、学術出版の困難さと意義を感じています。 ・2015年にパリ日本文化会館の招聘で客員教授を務めました。コロナ禍や現在の中東における戦禍から省みて、得難い体験だったとあらためて感じています。
私が思う多文化的かつ、インターカルチュラルな人物	<p>リービ英雄先生と鈴木晶先生。リービ先生は、日本語で小説を書く作家として知られているが、フランス語についても豊かな学識をお持ちで、立ち話でされた質問に私では答えられないようなことがあった。鈴木晶先生からは、サバティカル明けに、フランスの国立図書館のトイレはなぜ便座がないのかという質問をされた。いまだ確定的な答えを見いだせていない。</p>